

学びを主体的に自分や家族の生活につなげる児童の育成 —製作題材における「問題を見だし課題を設定する」活動の具体化を通して—

群馬県 富岡市立富岡小学校 金子 由季

1 主題設定の理由

本校の児童は、これができたら「家族が喜んでくれる」「家族のためになる」と、家庭科の学習を家庭生活に生かすことのよさを実感している。児童の実態を捉えるために4件法で行ったアンケート項目「家庭科の学習で学んだことを家庭生活上で生かしているか」では、肯定的な回答が8割を超えるが、20.5%が「いつも生かしている」、66.3%が「ときどき生かしている」であり、圧倒的にときどきと回答している児童が多い。また、残りの13.2%が「あまり生かしていない」「生かしていない」と回答している。このように、家庭科の学習を家庭生活に生かすことのよさを実感しているものの、学習したことを自分や家族の生活に合わせて取り入れることが難しい場合もある。これは、自分や家族の生活と関連付けながら学習できていないことに原因があると考えられる。児童が学びを主体的に自分や家族の生活につなげて考えられるようにするためには、どのようにしたら家族が喜ぶか、より暮らしやすくなるかなど、家族の一員として自分や家族の生活と向き合いながら、学習を進めることが大切であると考えられる。

小学校学習指導要領解説家庭編において、目標(2)は「日常生活の中から問題を見だし課題を設定し、様々な解決法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う」とあり、家庭科の問題解決的な学習の過程が示されている。

そこで、題材の1時間目にあたる「日常生活の中から問題を見だし課題を設定する」学習活動において、家庭とのつながりを明確にするように児童の思いを引き出すことで、「家族のためにできるようにになりたい」「自分の家族に合わせて学習したことを実践したい」など、学びと自分や家族の生活をつなげ、家庭生活をよりよいものにしていこうと自ら課題解決に向かう児童を育成したいと考え、本主題を設定した。なお、本研究においては、製作の題材での活動を具体化することとした。

2 研究内容

(1) 児童の系統的な学びを支える指導計画

- ・系統性を考えた製作題材の配列

(2) 家庭科の学習過程の明確化

- ・平易な言葉で児童と共有する家庭科の学習過程

(3) 問題を見だし課題を設定する活動の具体化

①児童の思いを引き出す活動の具体化

～見本の観察・実際の試し・生活場面の想起～

②児童の思考を整理する活動の具体化

～児童の思いを含む問題の見だしから課題を設定するまでの4ステップ～

(4) 学習評価の充実

- ・学びを自覚し、次への見通しをもつ振り返りカード

3 研究の具体

(1) 児童の系統的な学びを支える指導計画

・系統性を考えた製作題材の配列

本市家庭科主任会には、免許外や臨時の先生方もいる。そのため、市主任会で協働して年間指導計画を作成し、各校のカリキュラム・マネジメントに生かしている。また、児童が自ら問題を見だし題材の課題を設定できるよう、指導計画の中に課題例を明記し、市全体で活用をすすめている。以下は、市の主任会で作成した年間指導計画を参考にして、本校の実態に照らして作成した年間指導計画の一部である。第5学年で手縫いとミシン縫いによる平面構成を学習し、第6学年で立体構成を学習するよう、段階的に題材を配置している。

第5学年 年間指導計画の一部 ※色付きは、B(5)の題材（太囲みは、実践例1）

題材名	内容項目	課題例
ガイダンス	A(1)ア	
私の生活、大発見！	A(2)アイ B(2)ア(イ)	家の人と協力して、自分ができる仕事をしていくには、どうすればよいだろうか。
おいしい楽しい調理の力	B(2)ア(ア) (イ) (ウ) (エ) イ	食べ物をおいしく、安全にゆでて食べるには、どうすればよいのだろうか。
ひと針に心をこめて	B(4)ア(イ) B(5)ア(ア) (イ) イ	はりと糸を使って、正しく安全に布をぬい合わせるには、どうすればよいだろうか。
持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方	C(1)ア(ア) (イ) イ C(2)アイ	お金や物を大切に使うためには、どうすればよいのだろうか。
ミシンにトライ！ 手作りで楽しい生活	B(5)ア(ア) (イ) イ	自分の体に合っていて、使いやすく、丈夫で、きれいなエプロンを作るには、どうすればよいだろうか。
物を生かして住みやすく	B(6)ア(イ) イ C(2)アイ	気持ちよく、健康的で、安全な住まい方は、どのようにすればよいのだろうか。
気持ちがつながる家族の 時間	A(3)ア(ア) イ	家の人と気持ちよく、楽しく過ごしていくためには、どんなことが必要なのだろうか。
食べて元気！ご飯とみそ汁	B(1)アイ B(2)ア(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) イ B(3)ア(ア) (イ) (ウ) イ	おいしいご飯とみそ汁を安全に作るには、どのようにすればよいのだろうか。
5年生のまとめ	A(1)ア	

生活を変えるチャンス！	A(4)ア	
-------------	-------	--

第6学年 年間指導計画の一部 ※色付きは、B(5)の題材（太囲みは、実践例2）

題材名	内容項目	課題例
見つめてみよう生活時間	A(2)アイ	大切な時間を、健康的に、有効に使っていくためには、どうすればよいのだろうか。
朝食から健康な1日の生活を	B(1)ア B(2)ア (ア) (イ) (ウ) (エ) B(3)ア (ア) (イ)	食べ物をおいしく安全にいためて食べ、栄養をしっかりとるには、どうすればよいのだろうか。
夏をすずしくさわやかに	B(4)ア (ア) (イ) イ B(6)ア (ア) イ	暑い夏を涼しく、気持ちよく過ごすためにはどうすればよいのだろうか。
思いを形にして生活を豊かに	B(5)ア (ア) (イ) イ	目的に合った大きさぴったりのふくろを作るためには、どうすればよいのだろうか。
まかせてね 今日の食事	B(3)ア (イ) (ウ) イ	家族のために栄養バランスのよい1食分の献立を立て、作れるようにするには、どうすればよいのだろうか。
冬を明るく暖かく	B(4)ア (ア) イ B(6)ア (ア) イ	寒い冬を暖かく、気持ちよく過ごすためには、どうすればよいのだろうか。
あなたは家庭や地域の宝物	A(3)ア(イ) イ	家の人や地域の人とこれからも気持ちよく過ごしていくためには、どうすればよいのだろうか。
2年間のまとめ	A(1)ア	
生活を変えるチャンス！	A(4)ア	

(2) 家庭科の学習過程の明確化

・平易な言葉で児童と共有する家庭科の学習過程

児童の学びたいという意欲を高め、主体的・対話的に学習を進めるためには、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、他者と意見交流し、実践を評価・改善して、解決策を導き出していく過程を重視した問題解決的な学習の充実を図る必要がある。また、自らの生活を見つめ、生活をよりよくしようと工夫し実践できる児童を育成するためには、児童が「家庭科の学び方」を身に付けることが大切である。そこで、本校では、問題解決的な学習の充実を図り、児童が「家庭科の学び方」を身に付けることができるよう、はばたく群馬の指導プランⅡ（群馬県全教員に配付される学習指導の参考資料）に示されている家庭科の「つかむ」「追究する」「まとめる」過程における具体的な学習活動を、図1のように平易な言葉で表すことでより明確にし、児童と共有し学習を進めた。

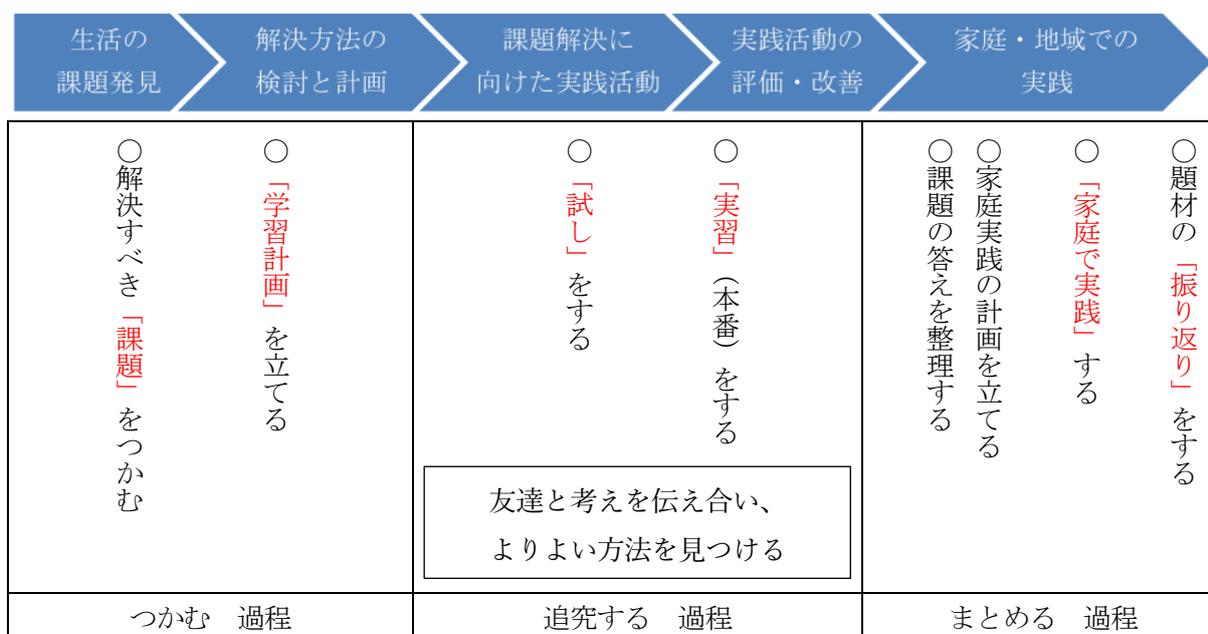


図1 家庭科の学習過程と学習活動

「つかむ」過程では、日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた学習計画を児童と共に立て、児童が主体的に知識及び技能を習得しようとするよう題材の導入を工夫していく。その際、「本題材で解決することは何か」「どのように学習を進めるのか」「課題を解決した後にはどのような姿になっているか」など、題材で解決することや学習の方向性、目標を達成した姿を児童がイメージできるようにすることが大切である。

「追究する」過程では、題材の課題解決に必要な知識及び技能を習得するための実践的・体験的な活動（試しと本番）を行う。その後、試行した方法について実際にやってみてどうであったかを考え、「この方法を使うと良さそうだ」「もっとこうすべきだった」のように友達と考えを伝え合い、実践してみたことの評価・改善を行う。このように実践的・体験的な活動（試しと本番）と評価・改善を繰り返すことで、よりよい方法を見つけ、課題の解決を図っていく。友達と考えを伝え合い、よりよい方法を見付けるといった経験を積むことで、友達と話し合うことよき気づき、対話的な学びへとつながると考える。

「まとめる」過程では、課題の解決に向けて取り組んだ結果を振り返り、課題の答えを整理する。そして、家庭での実践計画を立て、家庭での実践を行っていく。学習内容によっては、家庭での実践が「追究する」過程にある場合や、学習の最後にある場合も考えられるが、家庭での実践後には、感想や結果、家族からもらった感想などを話し合い、題材全体の振り返りをきちんと行うことが大切である。そして、振り返りを行う中で新たな課題を見付け、日常生活につなげることができるようにしていく。さらに、児童は題材の学習前の自分と学習後の自分を比較し、どのようなことができるようになったかを自覚することで、自分の成長を実感することができ、今後の学習意欲の向上につながると考える。

このような学習過程を児童と共有しながら学習を進めていくことで、児童が学ぶ意欲をもって課題に気づき、授業や生活の中で主体的・対話的に課題解決に取り組むことができると考える。そして、家庭科の学び方を身に付けることで、生活をよりよくしようと工夫し実践する力を育てることができると考えた。

(3) 問題を見だし課題を設定する活動の具体化

日常生活の中から問題を見だし課題を設定するにあたり、「題材の目標と現在の生活との差」「目標と比較して、まだできないことやまだ知らないこと」「できるようになりたいこと、知りたいことなどの思い」を家庭科における問題と捉え、問題の中に児童の思いも含めることとした。

①児童の思いを引き出す活動の具体化 ～見本の観察・実際の試し・生活場面の想起～

学びを主体的に自分や家族の生活につなげ、家庭生活をよりよいものにしていこうとする児童を育成するためには、題材の1時間目にあたる「問題を見だし課題を設定する」学習過程において、「家族のためにできるようになりたい」「生活に合わせて作りたい」などの児童の思いを引き出すことが大切である。そして、その思いから題材の課題を設定することで、その後の単位時間においても課題解決に向けて目的や見通しをもって、学びと自分や家族の生活をつなげることができると考えた。

児童の「できるようになりたい」「知りたい」などの思いを引き出すため、題材に応じて「見本となる実物を観察する活動」、「実際に試す活動」、「具体的な生活場面を想起する活動」のいずれかを取り入れる。なお、製作題材では、「見本となる実物を観察する活動」が効果的である。

○「見本となる実物を観察する活動」の例（5年B(5)「ひと針に心をこめて」の題材）

見本のコースターの観察をもとに問題を見だし、子どもたちが課題を設定した



対話交流

好きな色でつくってみたい!

練習すればつくれそうだよね!

家族の分もつくって、回らんで使ったらいいよね!

人にあげるなら、きれいで丈夫につくりたいよね!

でも、どうすれば...

試行錯誤

【問題を見いだすための活動】

**見本となる
手作りコースターの観察**



縫い方の異なる（なみ縫い・返し縫い・かがり縫い）三つのコースター

自己決定

児童が設定した課題

自分や家族が使う手作りコースターを、きれいで丈夫につくるには、どのようにするとよいのだろう。

②児童の思考を整理する活動の具体化 ～児童の思いを含む問題の見だしから課題を設定するまでの4ステップ～

①の活動で引き出した児童の思いを基に、図2のように児童の思考を整理しながら、学習の目的や学習後の姿を明確にして題材の課題を設定することで、その後の単位時間においても学びと自分や家族の生活をつなげながら学習できるようにする。

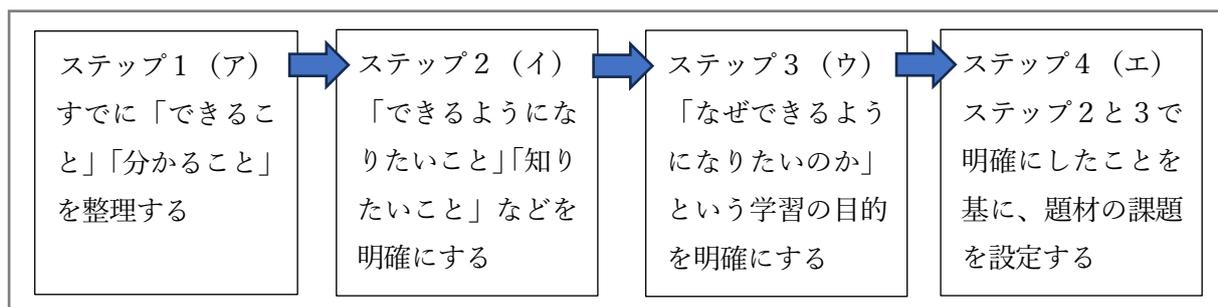


図2 児童の思考を整理する4ステップ

ステップ1では、これまでの学習や生活経験などから、すでに「できること」「分かること」を整理する。ステップ2では、理想の姿や学習後の姿を共有し、そのために「できるようになりたいこと」「知りたいこと」などを明確にする。ステップ3では、学習と自分や家族の生活をつなげることができるよう「なぜできるようになりたいのか」「誰のためにできるようになりたいのか」という学習の目的を明確にする。ステップ4では、ステップ2とステップ3を基に、課題を設定する。この4つのステップを踏み、課題を設定することで、学習の方向や目標を達成した姿が児童にとって明確になり、学習の見通しをもつことができ、主体的な学習へとつながると考える。

(4) 学習評価の充実

・学びを自覚し、次への見通しをもつ振り返りカード

題材ごとに1枚の振り返りカードを用意し、毎時間ごと（学習活動によっては、活動のまとまりごとの場合もある）に記入する時間を必ず確保する。児童が分かったことやできたこと、今後取り組みたいことなどの視点をもって振り返りを書くことで、できるようになったことを自覚することができるとともに、できなかったことも自覚することができ、次時への見通しをもつことができる。また、振り返りを一覧にまとめることで、どのような学習をしたのか、どのようなポイントがあったのかなど、既習内容を簡単に振り返ることもできる。

振り返りカードの例（第5学年「ひと針に心をこめて」）

5年家庭

5年 組 番 名 前 _____

ひと針に心をこめて

<学習課題> 自分や家族が使う手作りコースターを、きれいで丈夫につくるには、どのようにするとよいのだろう。	
----------------------------------------------------------	--

1	できるように（わかるように）なりたいこと

	○わかったこと △わからなかったこと（もっと知りたいこと）	がんばったこと がんばりたいこと	これからの学習や生活に 生かしたいこと
2			
3			
4			

【実践例1】 第5学年 題材名「ミシンにトライ！手作りで楽しい生活」 B(5)

1 題材について

児童にとって布製品は身近なものであり、身の回りの生活を快適にしたり、便利にしたり、楽しい雰囲気を作り出したりするなど、児童もその良さに気付いている。また、入学時から家庭で作ってもらった布製品を大切に使用している児童も多く、手作りの良さを実感しており、既製品とは違った良さを感じる機会も多い。このように、布を用いた製作は生活に役立つばかりではなく、身近な人との関わりを深めることにもつながる。本題材では、自分の体の大きさに合わせたエプロンの製作を行う。エプロンは、全ての布端を三つ折りにして直線縫いをすることで完成させることができる。そのため、繰り返し同じ縫い方をすることができ、初めてミシンを用いた学習をする児童にとって、ミシンやアイロンの安全な扱い方や適切な使い方について理解し、それらに係る技能を身に付けるために適している。エプロンについては、紐の通し方や縫い方が異なる3種類の見本の中から製作するタイプを選び、自分の思いに合った布を準備したり、使う場面を想定して大きさや形を考えたポケットを付けたりしながら製作する。「こんなエプロンを作りたい」「こんな場面でエプロンを使いたい」という思いをもってエプロンを製作することで、「丈夫に製作するにはどうしたらよいか」「きれいに製作するにはどうしたらよいか」と、よりよいエプロンの完成に向けて、考えながら学習に取り組むことができる。この経験は、布製品を購入する際にも生かされ、丈夫にできている物や活用場面に合っている物を選ぶようとする目を養うことにもつながる。また、完成後には実際に家庭や学校で使うことで、自分が製作したものを使うことのできる喜びを味わうとともに、仕上がり具合を確かめることもできる。日常生活で使う布製品を自分で製作できたという達成感や、「次はどんな物が作れるだろうか」「誰かのために作りたい」と、今後の実践意欲を向上させることができる。

2 題材の目標

- (1) 製作に必要な材料や手順、製作計画やミシン縫いによる目的に応じた縫い方、用具の安全な取扱いについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- (2) 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。・ミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。	生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

4 指導と評価の計画 (全 13 時間)

	時間	ねらい・学習活動 ㊟：家庭での活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
つかむ	1 (本時)	<p>○生活を豊かにするための布を用いた製作について問題を見いだして課題を設定し、課題を解決するための学習計画を立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンを使って、できるようになりたいことについて考える。 ・見本を見て、どんなエプロンを作りたいかを考え、意見を基に課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 自分の体に合っていて、使いやすく、丈夫で、きれいなエプロンを作るには、どうすればよいだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するための学習計画を考える。 		①生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定している。 ・ワークシート ・振り返りカード	
	2	<p>○エプロンの製作計画を立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見本のエプロンを参考に、形や大きさひもの種類などを考え、製作計画を立てる。 ・布を観察し、布には種類や特徴があることを知る。 	①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ・ワークシート	②生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画を考え、工夫している。 ・ワークシート ・振り返りカード	
追究する	3	<p>㊟家庭で型紙の作り方の動画を視聴し、ポイントや分からなかったことをまとめる。</p> <p>○型紙の作り方を理解し、型紙を作り、必要な布の量が分かる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での視聴で分からなかったことを中心に型紙の作り方を振り返る。 ・友達と協力しながら、自分の体に合った型紙を作成する。 			①生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ・行動観察 ・振り返りカード ②生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・行動観察 ・振り返りカード
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で布や紐等の製作に必要な材料を準備する。 			
	4	<p>㊟家庭で空縫いの仕方の動画を視聴し、ポイントや分からなかったことをまとめる。</p> <p>○ミシンの仕組み、安全な使い方について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの準備の仕方、安全な使い方について、ミシンを用いて確認する。 ・空縫いをする。 	②用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。 ・行動観察 ・ワークシート 指導に生かす評価		
		<p>㊟家庭で上糸・下糸の準備の仕方の動画を視聴し、ポイントや分から</p>	③ミシン縫いによる目的に応じ		

5	<p>なかつたことをまとめる。</p> <p>○上糸、下糸の準備の仕方、縫い方の基本について理解することができる。</p> <p>・家庭での視聴で分からなかつたことを中心に、糸の取り付け方や下糸のまき方について振り返り、実際に取り付ける。</p> <p>・空縫いの学習を基に練習布を用いて試し縫いをする。</p>	<p>た縫い方について理解しているとともに、適切にできる。</p> <p>・行動観察</p> <p>・ワークシート</p> <p>・練習布</p> <p>指導に生かす評価</p>	<p>③生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について、実践を評価したり、改善したりしている。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・振り返りカード</p>
	<p>⑧家庭で直線縫い、返し縫い、角の曲がり方の動画を視聴し、ポイントや分からなかつたことをまとめる。</p> <p>○直線縫い、返し縫い、角の曲がり方について理解し、縫うことができる。</p> <p>・家庭での視聴で分からなかつたことを中心に直線縫い、返し縫い、角の曲がり方について振り返る。</p> <p>・練習布を用いて縫い方の練習をする。</p> <p>・丈夫できれいに縫うためのポイントについて気付いたことを伝え合う。</p>		
7	<p>⑧家庭でしるし付けの仕方の動画を視聴し、ポイントや分からなかつたことをまとめる。</p> <p>○型紙を基に、布にしるしを付け、布を裁つことができる。</p> <p>・家庭での視聴で分からなかつたことを中心にしるしの付け方、布の裁ち方を振り返る。</p> <p>・友達と協力しながら、しるし付けをし、布を裁つことができる。</p>	<p>②用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。</p> <p>・行動観察</p> <p>・ワークシート</p> <p>・確認テスト</p> <p>記録に残す評価</p>	
	<p>⑧家庭で三つ折り縫いの仕方の動画を視聴し、ポイントや分からなかつたことをまとめる。</p> <p>○アイロンを使って三つ折りをし、エプロンの布端を縫うことができる。</p> <p>・家庭での視聴で分からなかつたことを中心に三つ折り縫いの仕方を振り返る。</p> <p>・アイロンを使って三つ折りをし、エプロンの布端を縫う。</p>		
8 ・ 9 ・ 10	<p>⑧家庭でポケットの付け方の動画を視聴し、ポイントや分からなかつたことをまとめる。</p>		

	11・12	<p>○ポケットを付け、紐を通すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での視聴で分からなかったことを中心に、ポケットの付け方について振り返る。 ・型紙を作り、自分の思いにあったポケットを付ける。 ・エプロンに紐を通す。 <p>* ひもを縫い付ける場合には8・9・10時間目で縫い付ける。</p>			
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・製作したエプロンを家庭や学校で活用したり、他の物を製作したりする。 			<p>③生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について工夫し、実践しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・振り返りカード
まとめる	13	<p>○題材を通してできるようになったことを自覚し、これからの生活や学習に生かしていこうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品や実際に使ってみた様子について紹介し合う。 ・学習課題を基に本題材のまとめをする。 ・「本題材でできるようになったこと」、「今後生かしていきたいこと」を観点に振り返りをする。 			

5 本時の学習（1／13時間）

1 **ねらい** エプロンの見本の観察を基に、疑問点やミシン縫いの特徴について話し合うことを通して、ミシン縫いによる布を用いた物の製作についての問題を見いだして課題を設定し、課題を解決するための学習計画を立てることができる。

2 展開（45分）

主な学習活動 予想される児童の意識〔S〕	○指導上の留意点 ◆評価場面（観点）
<p>1 本時のめあてをつかむ。（5分）</p> <p><めあて> 見本のエプロンを観察して疑問点やミシン縫いの特徴を話し合い、課題を設定し、学習計画を立てよう。</p> <p>S：ミシンが使えるようになって、見本のようなエプロンを作りたいな。</p>	<p>○家庭科の問題解決的な学習の過程を意識して学習に取り組めるように、題材の1時間目に行う学習活動を問いかける。</p> <p>○ミシン縫いによる布を用いた物の製作について問題を見いだして課題を設定し、学習計画を立てるという目的意識をもつことができるように、エプロンの見本を提示する。</p>
<p>2 見本のエプロンを観察して疑問点やミシン縫いの特徴を話し合い、問題を見いだす。（15分）</p> <p>S：見本のエプロンの縫い目は、手縫いと違って細かくまっすぐできれいだし、手縫いよりも丈夫に縫えているな。でも、手縫いの時のような玉結びや玉どめがないけど、糸が抜けないのかな。</p> <p>S：見本のエプロンは、友達が言うように、自</p>	<p>○疑問点やミシン縫いの特徴に気付けるように、見本を一人一人が手にとって観察するよう促す。</p> <p>○体に合うサイズに気付けるように、見本のエプロンを体に合わせてみるよう促す。</p> <p>○ミシン縫いによる布を用いた物の製作について問題を見いだすことができるように、今の自分にできること、まだできないこと、できるようになりたいことなどを観点</p>

<p>分には大きすぎるから、体に合うサイズで作りたいな。手縫いの時のように、縫い方を覚えて、ミシンを使ってきれいに縫えるようにしたいな。</p>	<p>に、観察や話し合いで気付いたり考えたりしたことをロイロノートに記述するよう助言する。</p>
<p>3 見いだした問題を基に、課題を設定する。(10分) S: どの班の意見も、きれいで丈夫なエプロンを作りたいというのが共通だな。出来上がった調理実習や家で料理や掃除などをする時に使いたいな。 S: 「きれい」につくるために、縫い目をまっすぐにしたいな。それに、「丈夫」につくるために、端までしっかり縫って、縫い目がほだけないようにしたいな。</p>	<p>○見いだした問題を共有し、自分たちが追究していく課題を検討できるように、児童の意見を整理して板書する。 ○自分たちが目標とする状態を明確にして課題を立てることができるよう、製作するエプロンの出来上がりの状態を問いかける。</p>
<p><課題> 学校や家庭で長く使える、きれいで丈夫な、自分の体に合うエプロンを作るには、どうすればよいのだろうか。</p>	<p>◆評価場面(思①) ワークシートの記述内容や発言から、「ミシン縫いによる生活を豊かにするための布を用いた物の製作について問題を見いだして、課題を設定しているか」を評価する。</p>
<p>4 題材の課題を解決するために必要な学習を考え、学習計画を立てる。(10分) S: ミシンの使い方が分からないから、まずはミシンの使い方を練習して使えるようになる必要があるな。 S: 1学期の手縫いの時は、練習→本番→家庭実践→振り返りの順で学習してきたから、同じように進めればよさそうだね。</p>	<p>○課題の解決に向けて取り組むことを検討できるように、本題材の学習で身に付けたいことを問いかける。 ○自分たちが立てた課題を解決するための学習計画を決めることができるように、これまでの学習で課題を解決してきた経験や具体的にやってきた活動を想起するよう促す。</p>
<p>5 本時の振り返りをする。(5分) S: 見本を観察して気付いたことを友達と話し合い、課題を立てることができた。それに、ミシンを使うと、手縫いよりも縫い目が細かく、きれいでまっすぐに縫えることが分かった。早くミシンを使って、きれいで丈夫なエプロンを作りたいな。</p>	<p>○家庭科の学び方が身に付いていることを実感できるように、生活の中から問題を見いだして課題を設定できたことを称賛する。 ○次時以降の活動の見通しがもてるように、分かったことやできたこと、今後取り組みたいことを視点に振り返りをするように促す。</p>
<p><振り返り> S: 見本のエプロンを観察して、1学期に学習した手縫いとの違いが分かった。まだミシンの使い方が分からないから、まずはミシンを使えるようにして、縫い目がきれいで丈夫な自分の体に合ったエプロンを作っていきたい。</p>	

6 問題を見だし課題を設定する活動の具体

(1) 児童の思いを引き出す活動の具体

～見本のエプロンの観察～



～ひもの付け方が異なるエプロンの見本～



導入では、紐の通し方や縫い方が異なる3種類の見本をじっくりと観察したり、実際に身に付けてみたりする活動を行った。その中で、自分が作りたいエプロンのタイプや大きさを自己決定したり、学校や家庭での実際に使う場面を想定したりして、エプロン製作への意欲を高める児童の姿が見られた。また、縫い目を観察しながら、「1学期にやった手縫いとは違って、縫い目が細かいし、まっすぐできれい」「玉止めや玉結びが見つからないけど、ミシンでは必要ないのかな」など、既習事項と結び付けながら話し合う様子が見られた。

(2) 児童の思考を整理する活動の具体

①すでに「できること」「分かること」を整理する

1学期に学習した手縫いとの共通点や相違点から考える様子が見られた。布の重なりや縫い目に着目することで、「ミシンは手縫いよりもまっすぐきれいに縫える」のように、手縫いとミシン縫いの違いに気付くだけでなく、「ミシン縫いの方が丈夫」「手縫いの方が温かみを感じる」などのそれぞれのよさを捉える発言も見られた。

・布を重ねて縫っている
 ・手縫いよりもまっすぐで、きれいに縫えている
 など

②「できるようにになりたいこと」「知りたいこと」などを明確にする

①の話合いの中で分からなかったことを「できるようにになりたいこと」「知りたいこと」として全体で共有した。ミシンに触れた経験のない児童がほとんどであるため、多くの児童が「ミシンを使えるようになりたい」「安全な使い方を知りたい」と発言した。また、「見本のようにまっすぐな縫い目で縫いたい」「エプロンが大きすぎると使いづらいから、ちょうどよい大きさを作りたい」など、見本の観察を通して気付いたことを発言する様子も見られた。

・ミシンを使えるようになりたい
 ・見本のようにミシンできれいで丈夫に縫いたい
 ・自分の体の大きさに合わせて作りたい
 など

③「なぜできるようにになりたいのか」という学習の目的を明確にする

子供たちの「ミシンを使ってエプロンを作りたい」という思いが高まったところで、どうしてそのようにしたいのか問いかけた。多くの子供が「ミシンが使えたら、手縫いの時よりも作れる物が増える」「エプロンを作ったら、学校の給食や調理実習の時に使える」などと発言した。他にも、「ミシンが使えたら、弟に何か作ってあげられる」「エプロンは学校だけでなく、家でも使うことができる」など、ミシンを使えるようになることや、エプロンを作ることが、家族の仕事や家族のためにもつながることを発言する様子も見られた。

・手縫いだけでなくミシンも使えたら、作れる物が増えるから
 ・妹や弟にも何か作ってあげられるから
 ・エプロンがあったら、学校の調理実習や家の仕事で使えるから
 など

④ ①～③で明確にしたことを基に、題材の課題を設定する

①～③の整理した思考を基に題材の課題を設定した。児童はこれまでの学習で、家庭科の学習過程が身に付いており、題材の課題に必要な言葉を選び、課題を設定することができた。「きれい」や「丈夫」とはどのような状態であるか具体的に共有することで、学習後の姿をより明確にしながらか題材の課題を設定することができた。題材の課題設定後、課題解決に向けて必要な学習を考え、学習計画を立てた。

<課題>
 学校や家庭で長く使える、きれいで丈夫な、自分の体に合うエプロンを作るには、どうすればよいのだろうか。

7 学習評価の実際

本時における「思考・判断・表現」の評価規準①については、学習カードの記述内容や、振り返りの記述内容から評価した。見本のエプロンの観察をして気付いたことや疑問に思ったことの記述や、学習の振り返りの記述の中で、自分ができるようになりたいことや知りたいことなど、題材の学習で解決したいことや学習の方向のイメージを記入している場合を「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

おおむね満足できる状況（B）と判断した例（ワークシートと振り返りカード）

5年家庭科
ミシンにトライ！手作りで楽しい生活①
5年 組 番 名前
エプロンの見本をかんさつして気付いたことを話し合い、学習課題、学習計画をたてよう。
<メモ> 見本のエプロンの観察
<ul style="list-style-type: none">・ミシンは手ぬいより細かくて、まっすぐにぬえている。縫い目がそろっている。見本のようにきれいにぬいたい。どうするとよい？・丈夫そうだけど、玉結びがない。糸がぬけない？・布のはじが折ってあるのはどうして？・見本のエプロンを体に当てたら少し小さいから、見本より大きいエプロンにしたい。・ポケットはどのように付けるのかな？作るときはポケット2つにしたい。・エプロンがあれば、学校でも家でも使える。・ミシンを使えるようになりたい！

5年家庭	5年 組 番 名前
8. ミシンにトライ！手作りで楽しい生活	
<学習課題>	
学校や家庭で長く使える、きれいで丈夫な、自分の体に合うエプロンを作るには、どうすればよいのだろうか。	
1	できるように（わかるように）なりたいこと エプロンを観察したら、見本のようなエプロンを自分でも作ってみたいと思った。ミシンを使えるようになって、家でも学校でも使えるような自分に合ったエプロンを、見本のようにきれいなぬい目で作りたい。エプロン以外のものも作れるようになりたい。そのためにまずは、ミシンの使い方を覚えたい。

【実践例2】 第6学年 題材名「思いを形にして生活を豊かに」 B(5)

1 題材について

本題材は、身の回りの生活を便利にしたり、楽しい雰囲気を作り出したりするなど、自分や家族の生活を豊かにするための布を用いた製作として、入れたい物に合わせたバッグ製作を行う。バッグ製作は、できあがりの寸法に縫いしろ分を加えたり、余裕をもって出し入れしたりするゆとりの分量を考えたりする必要がある。そのため、縫いしろやゆとりの必要性やその見積もり方を理解し、それらに係る技能を身に付けるために適している。また、生活の中で身近に使用するバッグを目的や使い方に応じて自分で選んだ布を使い、適切な大きさに作ることができるという手作りのよさを感じながら製作することもできる。製作するバッグについては、自分や家族の生活から使用する場面やそのバッグを使う人、バッグに入れる物を想起し、思いに合った布を準備したり、大きさや形、ポケットの付け方を考えたりしながら製作をする。「こんな物を入れたい」「家族のためのバッグを作りたい」という思いをもって製作をすることで、「ちょうどよい大きさにするにはどうしたらよいか」「丈夫にするにはどうしたらよいか」と、よりよいバッグの完成に向けて、課題を解決しながら学習に取り組むことができる。また、完成後には実際に家庭や学校で使ったり、家族が使う様子を見たりすることで、自分が製作したことの喜びを味わうとともに、仕上がり具合を確かめることもできる。日常生活に使える布製品を自分で製作できたという達成感は、「次はどんな物が作れるだろうか」「誰かのために作りたい」と、今後の実践意欲を向上させることができる。

2 題材の目標

- (1) 製作に必要な材料や手順、製作計画やミシン縫いによる目的に応じた縫い方、用具の安全な取扱いについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- (2) 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。・ミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。	生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

4 指導と評価の計画 (全 12 時間)

	時間	ねらい・学習活動 ㊦：家庭での活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
つかむ	1 (本時)	<p>○布を用いたバッグの製作について問題を見いだして課題を設定し学習計画を立てることができる。</p> <p>・見本の観察を基に作りたいバッグの特徴や製作についての疑問点について考え、意見交流をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 家族や自分が使いやすい、入れたい物の大きさに合った丈夫なバッグを作るには、どうすればよieldろうか。 </div>		①生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について、問題を見いだして課題を設定している。 ・観察 ・ワークシート ・振り返りカード	
	2	<p>○バッグの製作計画を立てることができる。</p> <p>・見本のバッグを参考に、形や大きさ、持ち手の付け方などを考え、製作計画を立てる。</p>	①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ・ワークシート ・型紙 指導に生かす評価	②生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について、様々な解決方法を考え、工夫している。 ・ワークシート ・振り返りカード	①生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 ・観察 ・振り返りカード ②生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・観察 ・振り返りカード
家庭	㊦バッグ製作動画を視聴し、型紙の作り方を確認する。		③生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について、実践を評価したり、改善したりしている。 ・ワークシート ・振り返りカード		
3	<p>○型紙の作り方を理解し、型紙を作り、必要な布の量が分かる。</p> <p>・製作動画で分からなかったことを中心に型紙の作り方を確認する。</p>				
4	<p>・友達と協力し、入れたいものの大きさに合った型紙を作成する。</p>				
5	<p>○ミシンの基本的な使い方や縫い方が分かる。</p> <p>・ミシンの準備の仕方、安全な使い方について確認する。</p> <p>・糸のかけ方、縫い方について確認し、練習布を用いて試し縫いをする。</p>	②ミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。 ・観察 指導に生かす評価			
家庭	㊦バッグ製作動画を視聴し、しるしの付け方、布の裁ち方を確認する。		④生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作についての問題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。 ・観察 ・ワークシート		
6	<p>○型紙を基に、布にしるしを付け、布を裁つことができる。</p> <p>・製作動画で分からなかったことを中心にしるしの付け方、布の裁ち方を確認する。</p> <p>・友達と協力しながら、しるし付けをし、布を裁つことができる。</p>	①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ・観察 ・作品			

	家庭	⑧バッグ製作動画を視聴し、製作手順を確認する。			
	7 11	○製作手順を確認しながら、ミシンやアイロンを使い、バッグを製作することができる。 ・手順に沿って製作をする。 ①中表に二つ折りにし、左右のわきを縫う。 ②出し入れ口を三つ折りにして、まち針で留め、縫う。 ③持ち手を縫い付ける。 ④表に返す。	②ミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。 ・作品 記録に残す評価		③を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について工夫し、実践しようとしている。 ・ワークシート ・振り返りカード
	家庭	⑨製作したバッグを家庭や学校で活用したり、他の物を製作したりする。			
まとめ	12	○題材を通してできるようになったことを自覚し、これからの生活や学習に生かしていこうとする。 ・自分の作品や実際に使ってみた様子について紹介し合う。 ・学習課題を基に本題材全体の振り返りをする。			

5 本時の学習（1／12時間）

1 ねらい バッグの見本の観察を基に、作りたいバッグの特徴や製作の疑問点について話し合うことを通して、布を用いたバッグの製作についての問題を見いだして課題を設定し、学習計画を立てることができる。

2 展開（45分）

主な学習活動 予想される児童の意識【S】	○指導上の留意点 ◆評価場面（観点）
<p>1 本時のめあてをつかむ。（5分）</p> <p><めあて> 見本のバッグの観察を基に話し合い、課題と学習計画を立てよう。</p> <p>S：私も妹も市の図書館に行くときに共用で使えるバッグを作りたいな。</p>	<p>○家庭科の問題解決的な学習の過程を意識して学習に取り組めるように、題材の1時間目に行う学習活動を問いかける。</p> <p>○バッグの製作について問題を見だし、題材の課題と学習計画を設定するという目的意識をもつことができるように、バッグの見本を提示する。</p>
<p>2 見本のバッグの観察を基に、作りたいバッグの特徴や製作についての疑問点を話し合い、問題を見いだす。（15分）</p> <p>S：5年生でエプロンを作った時には、布の端を三つ折りにして縫ったけど、バックは三つ折りをしていない部分があるな。どんな風に縫うとバックの形になるのだろう。</p> <p>S：ポケットはエプロンの時にも付けたから付けられそうだけど、持ち手の部分はどのように縫うのかな。それに、大きさはどうやって決めたらいいのかな。</p>	<p>○バッグの特徴や製作の疑問点に気付けるように、入れる物の大きさに合わせて作った複数のバッグを用意する。</p> <p>○布を用いたバッグの製作について問題を見いだすことができるように、今の自分のできること、まだできないこと、できるようになりたいことなどを視点に、観察や話し合いをするよう助言する。</p>

<p>3 見いだした問題を基に、課題を設定する。(10分)</p> <p>S：友達が言うように、「使いやすい」バックにするには、「入れたい物に合わせた大きさ」にすることが必要だと思うな。</p> <p>S：内側にポケットを付けた方が、図書館のカードが入れられて便利になると思うな。それに、妹と一緒に長く大切に使いたいから、「丈夫」に作りたいな。</p>	<p>○見いだした問題を共有し、自分たちが追究していく課題を検討できるように、児童の意見をキーワードとして整理して板書する。</p> <p>○自分たちが目標とする状態を明確にして課題を立てることができるように、製作するバッグの出来上がりの状態を問いかける。</p>
<p><課題></p> <p>家族や自分が使いやすい、入れたい物の大きさに合った、丈夫なバッグを作るには、どうすればよいのだろうか。</p>	<p>◆評価場面（思①）</p> <p>学習カードの記述内容や発言から、「ミシン縫いによる生活を豊かにするための布を用いた物の製作について問題を見いだして、課題を設定しているか」を評価する。</p>
<p>4 題材の課題を解決するために必要な学習を考え、学習計画を立てる。(10分)</p> <p>S：5年生のエプロン製作の時は、練習→本番→家庭実践→振り返りの順で学習してきたから、同じように進めればよさそうだね。</p>	<p>○自分たちが立てた課題を解決するための学習計画を決めることができるように、これまでの学習で課題を解決してきた経験や具体的にやってきた活動を想起するよう促す。</p>
<p>5 本時の振り返りをする。(5分)</p> <p>S：見本を観察して気付いたことを友達と話し合い、課題を立てることができた。ミシンを使うのは久しぶりだから、きれい縫えるか心配だけれど、ミシンの使い方を思い出して、妹が喜んでくれるように、きれいで丈夫なバッグを作りたいな。</p>	<p>○次時以降の活動の見通しがもてるように、分かったことや今後取り組みたいことを視点に振り返りをするように促す。</p> <p>○自分や家族の生活と結び付けた目標が立てられるように、使う人や場面を想定しながら具体的にできるようになりたいことを記述している児童を称賛する。</p>
<p><振り返り></p> <p>S：見本のバッグを観察して、バッグの特徴や自分がまだできないこと、できるようにしたいことがはっきりした。自分だけでなく妹も一緒に使えるように、丈夫で使いやすいバッグを作りたいから、バッグの大きさ持ち手の長さをきちんと考えて決めたい。</p>	

6 問題を見だし課題を設定する活動の具体

(1) 児童の思いを引き出す活動の具体

～見本のバッグの観察～



～形や大きさが異なるバッグの見本～



導入では、入れたい物や使う場面に合わせた複数のバッグを提示し、どのような物を入れるバッグなのか予想する活動を行った。形や大きさの異なるバッグを提示することで、これからバッグ製作の学習が始まることを確認でき、自分の作りたいバッグをイメージする児童の姿が見られた。

次に、グループに分かれ、見本のバッグを観察する時間を設定した。話合いの前に、エプロン製作で学習したことを振り返り、観察の視点「〇〇はエプロンの時と同じ」「〇〇はできそう」「〇〇はよく分からない」「〇〇を知りたい」を提示したことにより、既習事項と結び付けながら話し合う様子が見られた。また見本のバッグが手元にあることで裏返して観察することができ、学習していない作り方を予想する児童も多く見られた。

(2) 児童の思考を整理する活動の具体

①すでに「できること」「分かること」を整理する

グループで話し合ったことを発表し、全体で共有、整理する時間を設定した。「エプロンでポケットを付けたからこのポケットは付けられる」など既習事項を基にできることを発表したり、観察したバッグを見せながら気付いたことを発表したりする様子が見られた。

・ポケットは付けられる
・持ち手も付けられそう
・エプロンと同じでできそうなどところがある
など

②「できるようにになりたいこと」「知りたいこと」などを明確にする

①の話合いの中で分からなかったことを「できるようにになりたいこと」「知りたいこと」として全体で共有した。児童の中には、分からなかったことに対して「こうすればできる」など予想を発表したり、予想に対して「確かに」「でも」など反応したりする様子が見られた。

・内側のポケットの付け方が分からない
・袋の形にするには、裏にして縫うのかな
など

③「なぜできるようにになりたいのか」という学習の目的を明確にする

「できるようにになりたいこと」や予想したことが解決したら、どのようなバッグを作りたいか問いかけた。実物を観察したことにより、使っている場面を想像しながら考えている様子が見られた。さらに、課題を解決した姿が明確になるよう、問い返しの質問をした。誰が使うバッグを作りたいのかについて問いかけたところ、「お母さんが使うエコバッグ」「妹が使う図書バック」などの意見が出された。友達の考えを聞くことで、多くの児童がバッグ製作をすることが、自分のためだけでなく、家族のためになることに気付くことができた。

・入れたい物にちょうどいい大きさが便利
・人によって入れたい物や用途が異なる
・家族が喜んでくれる
・長く大切に使えるように、丈夫に作りたい
など

④ ①～③で明確にしたことを基に、題材の課題を設定する

①～③の整理した思考を基に題材の課題を設定した。児童はこれまでの学習で、家庭科の学習過程が身に付いており、題材の課題に必要な言葉を選び、課題を設定することができた。「便利」などの言葉を③の段階で確認しておくことで、学習後の姿をより明確にしなが題材の課題を設定することができた。題材の課題設定後、課題解決に向けて必要な学習を考え、学習計画を立てた。

<課題>
家族や自分が使いやすい、入れたい物の大きさに合った、丈夫なバッグを作るには、どうすればよいのだろうか。

7 学習評価の実際

本時における「思考・判断・表現」の評価規準①については、学習カードの記述内容や、振り返りの記述内容から評価した。見本のバッグの観察をして気付いたことや疑問に思ったことの記述や、学習の振り返りの記述の中で、自分ができるようにになりたいことや知りたいことなど、題材の学習で解決したいことや学習の方向のイメージを記入している場合を「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。

6年家庭科

思いを形にして生活を豊かに①

6年 組 番 名前

バックの見本をかんさつして気付いたことを話し合い、学習課題、学習計画を立てよう。

<メモ> 見本のバッグの観察

できる！知ってる！	知りたい！できるようになりたい！
・ポケットの付け方	・内側ポケットの付け方
・持ち手はエプロンのひもの付け方と同じ？ちがう？	・底の作り方 底があると便利
・ミシンは使える	・布は何枚？1枚？2枚？
	・大きさはどうやって決めるのか？

○どんなバッグを作りたい??

・ショルダーバッグ
・べんりて、使いやすいバッグ（大きさをよく考える）
・すぐにこわれぬバッグ（きれいで丈夫にぬう）



6年家庭

6年 組 番 名前

12. 思いを形にして生活を豊かに

<学習課題>

家族や自分使いやすい、入れたい物の大きさに合った、丈夫なバッグを作るには、どうすればよいのだろうか。

1	できるように（わかるように）なりたいたいこと 今日は、いろいろな見本のバッグを観察したので、1つでなく、いくつも作りたくなってしまった。使う人に合ったバッグ、入れたい物に合ったバッグの作り方とポケットの付け方を知って、自分の物だけでなく、家族のためにバッグを作れるようになりたい。そのために、まずは形や大きさなどをしっかりと考えたい
---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 研究のまとめ

(1) 児童の系統的な学びを支える指導計画

どの学校でも、家庭科教員免許を持っている教員は少なく、授業について専門的な相談をできる機会が少ない。そのような中、市主任会共有の年間指導計画があることで、本校の実態に合わせ、

子供達の学びが平易な内容から発展的な内容へと段階的に位置付く年間指導計画へと見直すことができた。また、他校の情報を基に、自校での実践を考えることができた。このように市内の先生方と共有できた2年間の計画を、今後は子供達とも共有し、2年間の学びの見通しをもてるようにしたい。

(2) 家庭科の学習過程の明確化

平易な言葉で児童と家庭科の学習過程を共有したことで、子供達が家庭科の学び方を身に付けることができた。今後は、この学び方が他教科や中学校につながるよう、教科間の連携や、学校間の連携についても考えていきたい。

(3) 問題を見いだし課題を設定する活動の具体化

①児童の思いを引き出す活動の具体化

製作題材における授業の導入において見本の観察を行い、自分や家族の生活とつなげながら児童の思いを引き出したことで、題材の1時間目の振り返りでは、「家族のために」「自分が使いやすいように」など、自分や家族の生活とつなげ、具体的に「できるようになりたいこと」を記入する児童が多く見られた。今後は、製作以外の題材における児童の思いを引き出す具体的な活動を探っていききたい。

②児童の思考を整理する活動の具体化

児童が題材の課題を設定できるよう、児童の思いを引き出し、思考を整理したことで、学習後の姿をイメージし、「次はこの学習だ」と必要感をもちながら学習する様子が見られた。また、友達にポイントを聞いて次の学習につなげたり、分からないことを教科書や動画で確認したりと、自ら課題解決に向けて学習する姿が多く見られた。さらに、単位時間の学習活動の中でその課題を確認するタイミングを設けたことで、自分や家族の生活とつなげながら学習に取り組むことができた。単位時間の学習活動や題材全体の振り返りにおいても、自分や家族の生活がより快適になるように必要なことを選択したり、自分や家族に合わせて実践しようとする児童が多く見られた。どの題材においても、学習全体を通して学びと生活をつなげる意識が更に継続するよう、単位時間の導入で題材の課題や「なぜ」「誰のために」などの学習目的や家庭で生かせることを問いかけたりするなど、題材の課題に立ち戻って振り返りをする場面を全題材で充実させていく必要がある。

(4) 学習評価の充実

単位時間の学びを自覚し、次への見通しがもてるように、振り返りカードには、視点を示していたことで、子供達が「振り返りとは、できないこと、分からないことも含めた自分の学びを自分で捉えて、次にすることの見通しを書く」ことが身に付いてきた。そのため、次の時間に子供達にとって必要となる材料や資料の準備など、子供が自ら学びを進める環境の構成をしやすくなってきた。子供達が、学びを自分たちで進めることができるような環境をつくり、それを生かせる授業の構成を充実できるよう、これからも一人一人の学習状況を適切に捉えていきたい。